

【JCAABE リレートークのお知らせ】

JCAABE の会員サービスとして、会員の活動内容紹介のリレートークを企画しました。トークしていただいた会員からは、次のトーク者をご紹介していただくという形で、順にリレーしていきます。1時間の中で、40分のトーク、20分の質疑応答タイムとして会員の皆さんと活発なディスカッションができればと思っています。

■紹介文：北海道支部長の菅沼さんから北海道南幌町で建築家と工務店がコラボレーションして「クオリティ・ファーストの暮らし」づくりに取り組んでいる活動を紹介します。社会の多様性が重要になり、高い環境性能と安全性が求められる時代において先進的な住宅地づくりにふれることを楽しみにしています。（紹介者：石原智也）

第 3 回 2023 年 11 月 28 日（火） 19:00－20:00

zoom

<https://us02web.zoom.us/j/85388550296?pwd=LzE3TkVWRlZvVWhpYnZZMEUvRGdlUT09>


ミーティング ID: 853 8855 0296
パスコード : 575601

テーマ

「南幌町みどり野きた住まいるヴィレッジとまちづくり」

プレゼンター：菅沼秀樹

株式会社アトリエブंक 代表取締役社長
(JCAABE 正会員・北海道支部長)



1994年3月 北海道大学工学部建築工学科 卒業
1996年3月 北海道大学大学院工学研究科建築工学専攻修士課程 修了
1996年4月 株式会社アトリエブंक 入社
2016年4月 同社 代表取締役社長就任 現在に至る



【JCAABE リレートークのお知らせ】

JCAABE の会員サービスとして、会員の活動内容紹介のリレートークを企画しました。トークしていただいた会員からは、次のトーク者をご紹介していただくという形で、順にリレーしていきます。1時間の中で、40分のトーク、20分の質疑応答タイムとして会員の皆さんと活発なディスカッションができればと思います。

■紹介文：「都住創」シリーズは、大阪の都心部を中心に1977年から2002年にかけて20棟・約300区画の住宅・オフィス・ホール等が建設された、コーポラティブ住宅群です。都住創内淡路町に居住中の荒木さんは、世代更新が進む都住創シリーズの調査を通じて、区分所有マンションをはじめとする都市住宅の持続性の研究に取り組まれています。

(紹介者：菅沼秀樹)

第4回 2024年2月27日(火) 19:00-20:00

zoom

<https://us02web.zoom.us/j/85124617180?pwd=SjdreUxKWxVjYStnbDhQQ2pZWnY2QT09>

ミーティング ID: 851 2461 7180

パスコード: 988327



テーマ

コモンズとしての集合住宅 -コーポラティブ住宅群「都住創」シリーズを通じて

プレゼンター：荒木 公樹

空間計画株式会社 代表取締役

(JCAABE 正会員・近畿支部長)



1971年大阪生まれ。1995年神戸大学建築学科卒業。2003年空間計画設立。都住創内淡路町に2013年より居住。前オーナーからの依頼でリノベーション設計を手がけたことをご縁に住み継ぐことに。職住一体の住まいを実践中。



都住創シリーズ

1. 都住創松屋町 (1977年)
2. 都住創岩井町 (1978年)
3. 都住創大手通 (1978年)
4. 都住創内平野町 (1979年)
5. 都住創うつば (1980年)
6. 都住創中大江 (1981年)
7. 都住創徳井町 (1982年)
8. 都住創石町 (1983年)
9. 都住創森の宮 (1984年)
10. 都住創釣鐘町 (1984年)
11. 都住創清水谷 (1985年)
12. 都住創内淡路町 (1986年)
13. スパイヤー (1987年)
14. 都住創北山町 (1988年)
15. トリオネ (1989年)
16. CASA 都住創 (1990年)
17. 都住創岡山町 (1991年)
18. 都住創カレンズ (2000年)
19. 都住創大手前 (2001年)
20. 都住創糸屋町 (2002年)

TOJUSO
series

1977-2002

【JCAABE リレートークのお知らせ】

JCAABE の会員サービスとして、会員の活動内容紹介のリレートークを企画しました。トークしていただいた会員からは、次のトーク者をご紹介していただくという形で、順にリレーしていきます。1時間の中で、40分のトーク、20分の質疑応答タイムとして会員の皆さんと活発なディスカッションができればと思います。

■紹介文：徳川家康による町割りが現代に引き継がれる駿府の城下町には、静岡大火と戦災の経験を踏まえて造られた防火帯建築が残る呉服町、静岡駅と市街地の接点に当たる紺屋町という二つの特徴的なまちが連続する。鳥居さんは、この二つのまちを対象として、静岡の次代を担う若手建築家とともに、人を中心に据えた将来のまちづくりの起点となる提案づくりに取り組まれています。
(紹介者：荒木公樹)

第5回 2024年5月21日(火) 19:00-20:00

zoom

<https://us02web.zoom.us/j/88040341736?pwd=VnpLYWlNanGxOTRWMnB5aWFva0h6dz09>

ミーティング ID : 880 4034 1736

パスコード : 558961

会員のお知り合いの方であれば誰でも参加できます。



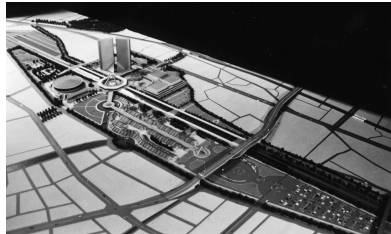
テーマ

中心市街地の再生と更新 —静岡のまちはどこへ行くのか—

プレゼンター：鳥居久保 企業組合 針谷建築事務所 会長
(JCAABE 正会員・東海支部長)



1954年 静岡市生まれ。1979年 東京理科大学工学部建築学科卒業。
1979年 企業組合 針谷建築事務所 入所。1994年 磯崎新アトリエ出向。
2002年 企業組合 針谷建築事務所 所長。2013年 同 理事長・所長(兼務)。2023年より現職。



JCAABE リレートーク

【JCAABE リレートークのお知らせ】

JCAABE 会員の活動内容紹介のリレートークを企画しました。トークしていただいた会員から、次のトーク者をご紹介頂くという形で、順にリレーしていきます。1時間の中で、40分のトーク、20分の質疑応答タイムとして会員の皆さんと活発なディスカッションができればと思います。

■紹介文:近代建築は歴史的建築とは異なり、一般におけるその価値の理解度が弱いこともあり、十分な議論や検討が無い中で解体の危機が生じています。講師の鯨坂氏は、実務と学識経験をお持ちの建築家で、その意味について深掘りできる良い機会になると思われます。ドコモモの活動も含めてお話しいただけるとのこと、皆様、是非ご参加ください。(紹介者:鳥居久保)

第6回 2024年8月20日(火) 19:00~20:00

ZOOM

<https://us02web.zoom.us/j/89218422707?pwd=jgNCpAVQqOcd06ycbu6ai0gFU0fvvsu.1>

ミーティング ID: 892 1842 2707

パスコード: 124778



近現代建築を活用するまちづくりに向けて

プレゼンター: 鯨坂 徹 DOCOMOMO Japan 代表 / 鯨坂建築研究所代表

1957 名古屋生まれ

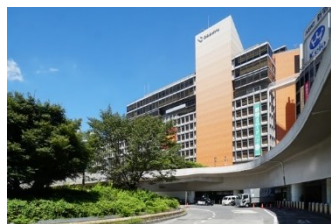
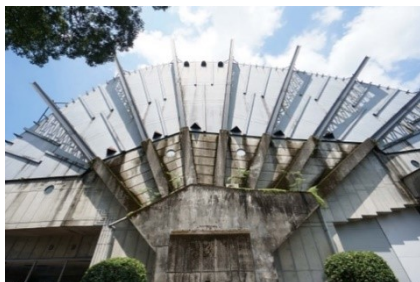
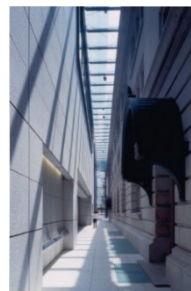
1983 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻修了後、三菱地所一級建築士事務所

2013 三菱地所設計を退社し鹿児島大学工学部建築学科教授に就任

2023 定年退官し鯨坂建築研究所設立



近現代建築はまだその価値が社会に認められにくい状況が続いており、DOCOMOMO Japan 選定建築もいくつか失われつつある。その状況の中で、近現代建築を継承していく課題と取組、問題点について解説し、使われなくなった歴史的建造物を活用した都市計画制度を報告、今後の近現代建築を活用するまちづくりに向けて、その事例と未来について意見交換を行えればと考えます、宜しくお願い致します。



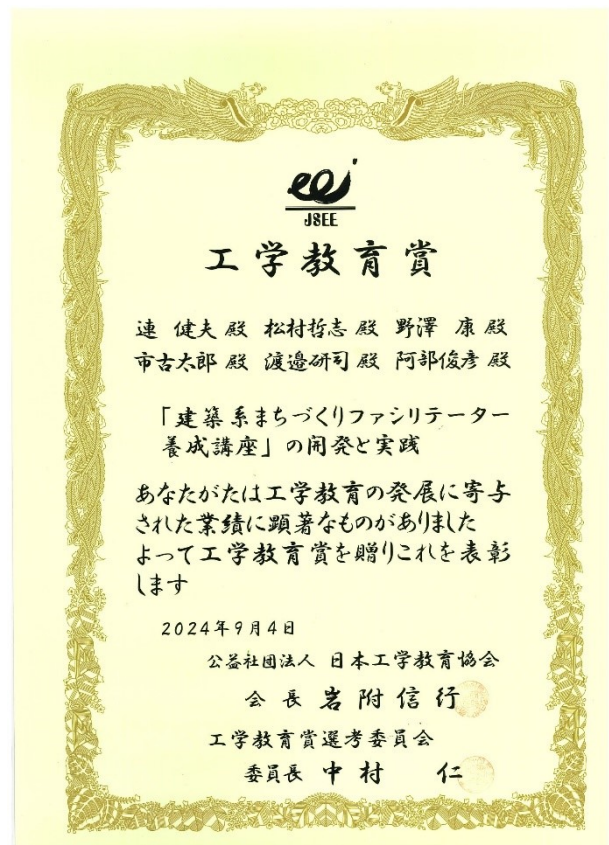
1. 保存再生をとりまく現状 解体される名建築と DOCOMOMO Japan の活動
地球環境から見た保存再生: 長寿命化改修と廃棄物・二酸化炭素排出量について
鉄筋コンクリート造建築の物理的寿命
2. 保存再生と法制度 忘れられた都市計画制度 重要文化財特別型特定街区
3. 歴史的建築の保存再生デザインと歴史的建築を活用するまちづくりに向けて



【2023 年度日本工学教育協会、工学教育賞（業績）】



授賞式（九州大学、2024 年 9 月 4 日）
左から、野澤康特別顧問、連健夫代表理事、
松村哲志理事



建築系まちづくりファシリテーター養成講座の開発と実践

Development and Practice of "Architectural Community Development Facilitator Training Course".

○社会的意義・目的と概要 「つなぐ」をテーマにした促進者の育成

現在、地域における問題・課題として「空き家・空き地」「防災」「地域活性化」「福祉の充実」「人口減少」「担い手不足」などが存在している。それらを総合的に解決、推進するためには、地域創生を含めたまちづくり活動が大切である。行政においては、空き家対策は緊急課題であり、地域住民と共に解決策を見出すことが求められている。これには建物だけではなく資金調達や運営、活性化といったエリアマネジメントを含めた総合的な知識が必要である。まちづくりには多様な立場の人が関わるため、その合意形成には専門的手法が必要となり、それを推進するためのファシリテーターが必要であるが、それを担う人材が不足しているのが現状である。本取り組みは、全国の専修学校・大学などの建築系コースにおいて建築をベースとしたまちづくりファシリテーター講座の開発と実践を行うことで住民・市民と協働できる人材育成を行うものである。この取り組みは、2019年度文部科学省の「専修学校による地域産業中核的人材育成事業」に日本建築まちづくり適正支援機構(JCAABE)が申請・受託してスタートした。幅広い分野から建築士、建築家、研究者、教育者等が集まり、事業実施委員会を設置し取り組んできた。2021年からは各地域に根差した高等教育機関と協働し教育活動を実施し拡がりを見せている。



○事業の経過 調査—開発—実践—未来へ 段階を踏まえた人材育成

まちづくりファシリテーター養成講座事業実施委員会
2019.10-2021.03

調査:2019.11-2020.02



実践2020- 麻生建築&デザイン専門学校、
新潟工科専門学校、日本工学院専門学校



実践 2022- 修成建設専門学校 岡山理科大学専門学校・読売理工医療福祉専門学校
東海工業専門学校金山校 静岡産業技術専門学校 立命館大学 名古屋女子大学



2019

2020

2021

2022

2023

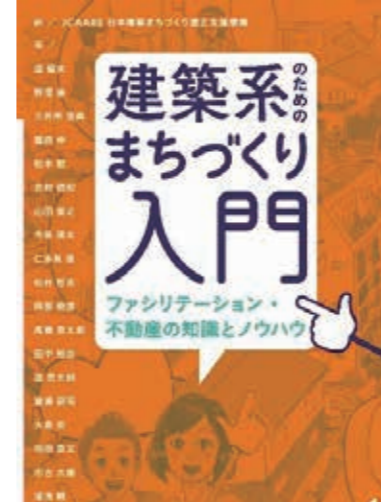
未来へ

教材の開発(シラバス、テキスト、動画教材、マニュアル、広報資料など)

<p>■総合</p> <p>1. まちづくりファシリテーターとは何か</p> <p>28. まちづくりファシリテーターの役割</p> <p>29. まちづくりファシリテーターのスキル</p> <p>30. まちづくりファシリテーターの役割</p>	<p>■B: 都市計画</p> <p>1. 都市計画における建築士の役割</p> <p>2. まちづくりファシリテーターの役割</p> <p>3. まちづくりファシリテーターのスキル</p> <p>4. コミュニケーション技術</p> <p>5. 地域活性化の手法</p> <p>6. 地域活性化の手法</p> <p>7. ワークショップ実践 (K&L・3D)</p>	<p>■D: 不動産・経営・税金</p> <p>22. 建築と不動産</p> <p>23. 賃貸</p> <p>24. 不動産の活用、宅建士の役割</p> <p>25. 賃貸</p>
<p>■A: 建築・デザイン</p> <p>12. 建築設計における建築士の役割</p> <p>13. 参加型デザインによる建築設計</p> <p>14. リノベーションまちづくり実践</p> <p>15. リノベーション実践・実習</p> <p>16. インテリアデザイン・実践・実習</p> <p>17. インテリアデザイン・実践・実習</p> <p>18. インテリアデザイン・実践・実習</p> <p>19. 実習</p>	<p>■C: 合意形成・ワークショップ</p> <p>5. まちづくりの手法</p> <p>6. まちづくりの手法</p> <p>7. ワークショップ実践 (K&L・3D)</p>	<p>■E: 防災・防災・エネルギー</p> <p>9. 建築まちづくり</p> <p>10. 建築まちづくり</p> <p>11. 建築まちづくり</p> <p>12. エネルギーとまちづくり</p> <p>13. エネルギーとまちづくり</p> <p>14. エネルギーとまちづくり</p> <p>15. エネルギーとまちづくり</p> <p>16. エネルギーとまちづくり</p> <p>17. エネルギーとまちづくり</p> <p>18. エネルギーとまちづくり</p> <p>19. エネルギーとまちづくり</p> <p>20. 保存・修復とまちづくり</p> <p>21. 建築実践</p>



教科書発刊(2021.09-)



文化庁文化遺産国際協力拠点交流事業
カイロ旧市街保存/住民参加のまちづくり



スプリングセミナー 2023.03-



サマーセミナー 2023.08-



○事業実施委員会

多様な実践者・研究者・教育者

※敬称略、委員長、副委員長以外50音順、所属は2020当時

- 連 健夫 (日本建築まちづくり適正支援機構)
- 松村哲志 (日本工学院専門学校)
- 阿部俊彦 (立命館大学)
- 市古太郎 (東京都立大学)
- 今泉清太 (麻生塾麻生建築&デザイン専門学校)
- 大倉 宏 (新潟まち遺産の会代表)
- 大槻一敬 (大槻企画制作事務所)
- 里中勝哉 (パナソニックホームズ株式会社)
- 鈴木大介 (大東建託株式会社)
- 高橋寿太郎 (創造系不動産)
- 田中裕治 (株式会社リライト)

- 西川直子 (建築ジャーナル)
- 仁多見透 (国際総合学園新潟工科専門学校)
- 野澤 康 (工学院大学)
- 茨田禎之 (株式会社アツカマタ)
- 松本 昭 (チームまちづくり)
- 向田良文 (デザインタック株式会社)
- 連 勇太郎 (特定非営利法人モクチン企画)
- 連 洋助 (連ヨウスケアトリエ)
- 山田俊一 (日本工学院専門学校)
- 渡邊研司 (東海大学)
- 北村稔和 ((株)家フリマ)

○調査

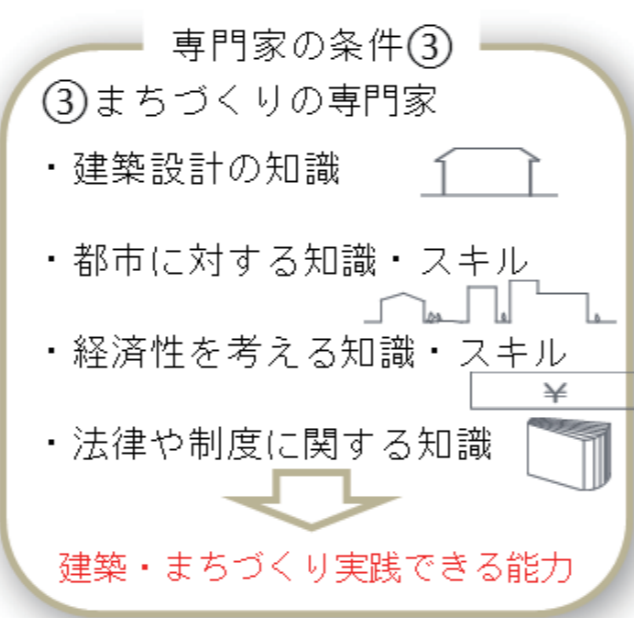
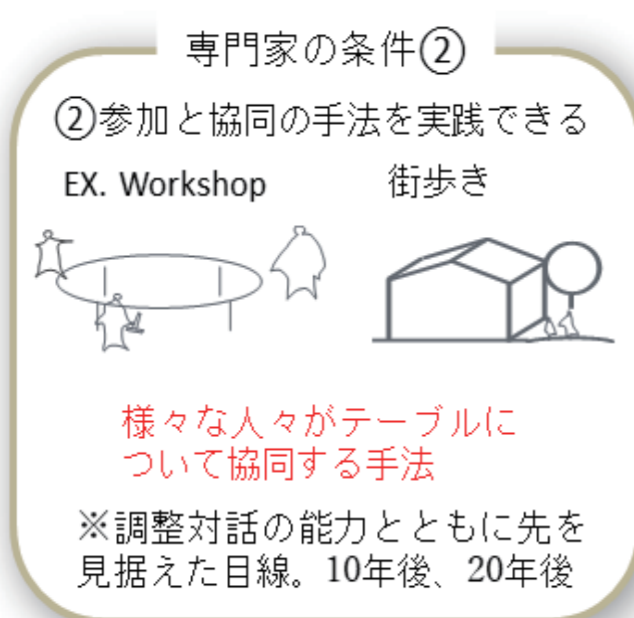
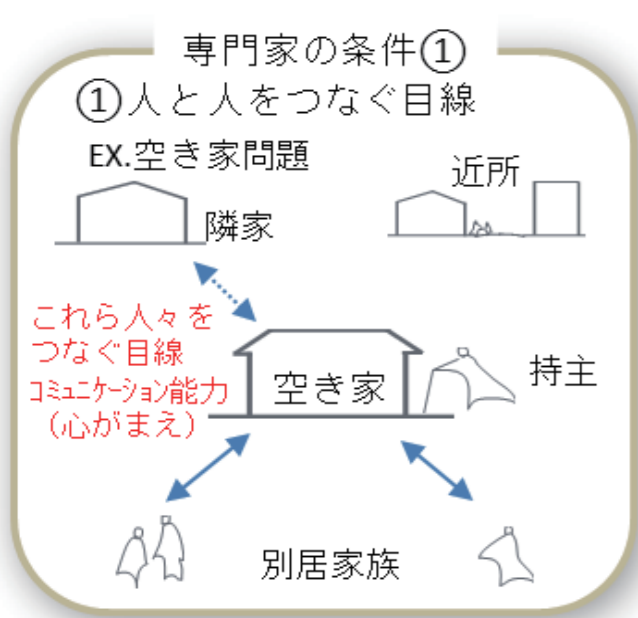
事例調査、アンケート調査、ヒアリング調査(学校、企業、行政など)
※日本建築学会第20回建築教育シンポジウム建築教育研究論文報告集 参照

□調査結果・考察・まとめ(抜粋)

- ・まちづくりファシリテーターは行政・企業ともに必要と回答
- ・特に住民・市民と専門家をつなぐコミュニケーション力の育成が必要性
- ・コミュニケーション力育成は協働する態度(Attitude)の育成が重要
- ・この考え方は社会にとって重要であるが新しい考え方であり、それをわかりやすく説明するためのツール、広報などが必要
- ・多様な課題解決に向けてまちづくりの専門家としての幅広い知識の習得必要
- ・教育を実施に対する専門家不足の現状。全国各地域で実施することへの工夫の必要性

○開発1 まちづくりファシリテーター人材育成のイメージ

①「人」と「人」をつなぐ目線をもった、②参加と協同の手法を実践できる、③まちづくりの専門家が必要

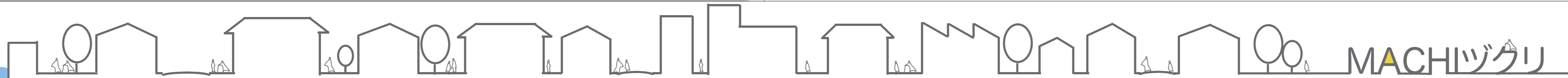


まちづくりファシリテーター養成講座→広く人材を育成する流れを作ることが目的

開発・実践に向けたPOINT

- T** **Technic & Theory**
T字型人材像:協働を促進する人材像
 - 幅広い知識と提案できる専門力
 - 提案できるコミュニケーション能力
 - 地域リーダーと繋がり要求に応える建築の専門性を持った人材へ
- A** **Attitude:素養(態度+知識スキル)の育成**
 - 多様な人と話ができるコミュニケーション力を持った態度
 - 「時間・距離・人」に左右されない教育方法
- R** **Recognition:社会認知と考え方のイノベーション**
 - 学生・社会への認知に向けて
 - キャリアストーリーの提示

特に「時間・距離・人」に左右されない学習方法の模索について意識し、オンライン・オンデマンドを用いたハイブリット型の授業運用や動画教材の開発を行った。



建築系まちづくりファシリテーター養成講座の開発と実践

Development and Practice of "Architectural Community Development Facilitator Training Course".

○開発から実践へ

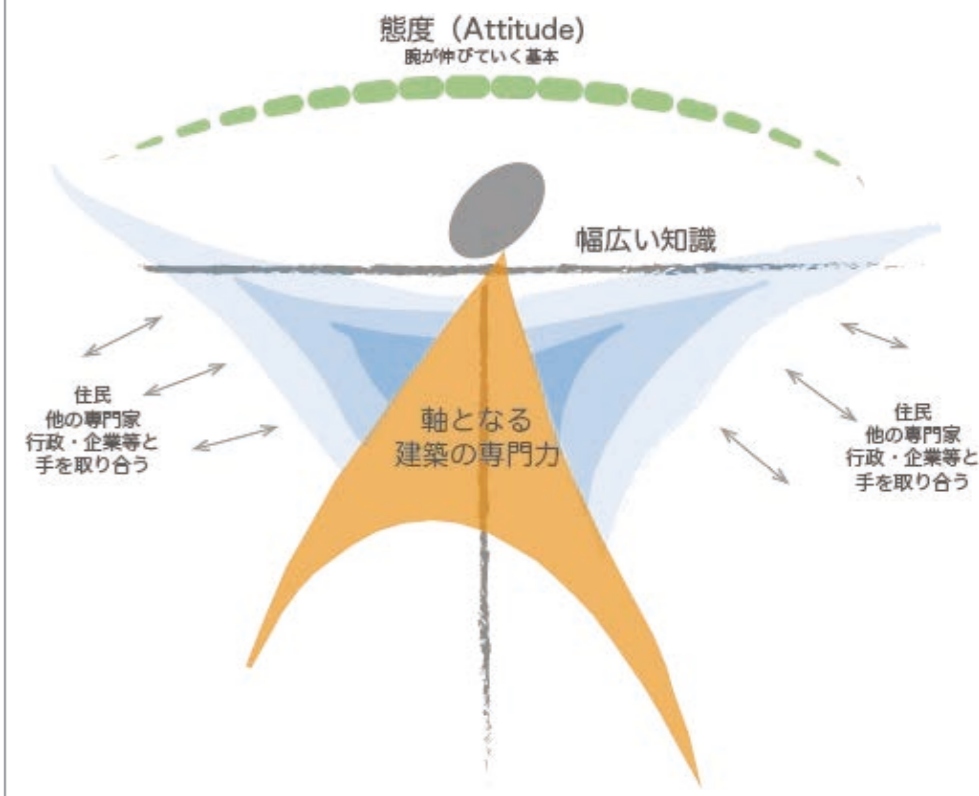
シラバス全体構成 :幅広い分野構成

<p>■総合</p> <ol style="list-style-type: none"> まちづくりファシリテーターとは何か まちづくりフィールドワーク①※ まちづくりフィールドワーク②※ まちづくりフィールドワーク③※ 	<p>■B:都市計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 都市計画における住民参加とファシリテーターの役割 まちづくりファシリテーターのコミュニケーション力のコミュニケーション力 地域特性を活かす規制や法律 空き家空き地活用概論 事例見学※ 	<p>■D:不動産・経営・税金</p> <ol style="list-style-type: none"> 建築と不動産 演習※ 今後の不動産業、宅建士との役割 演習※
<p>■A:建築・デザイン</p> <ol style="list-style-type: none"> 建築設計における参加型のデザイン 参加型デザインによる実例見学 ※ リノベーションまちづくり概論 リノベーション技術・実習 ※ インスペクション・耐震化・不燃化概論 演習※ 	<p>■C:合意形成・ワークショップ</p> <ol style="list-style-type: none"> まちづくりの手法① まちづくりの手法② ワークショップ演習 (KJ法・3Dゾウ) ※ 	<p>■E:修復・防災・エネルギー</p> <ol style="list-style-type: none"> 事前復興まちづくり 事前復興まちづくり演習※ 建築・まちづくり事例講義 エネルギーとまちづくり エネルギーとまちづくりの実践※ 保存・修復とまちづくり 修復実例見学※
<p>■総合 実際のまちづくり活動等への体験学習 (地域の実情で柔軟に設定) ※</p>		

カリキュラム・シラバス :経験学習サイクル

前期15コマ	後期15コマ
<p>1 総合</p> <p>2 B.都市計画</p> <p>3 実践</p> <p>4 WS</p> <p>5 C.合意形成ワークショップ</p> <p>6 実践</p> <p>7 WS</p> <p>8 B.都市計画</p> <p>9 E.修復・防災・エネルギー</p> <p>10 演習</p> <p>11 実践</p> <p>12 A.建築デザイン</p> <p>13 実践</p> <p>14 実践</p> <p>15 実践</p>	<p>16 総合</p> <p>17 E.修復・防災・エネルギー</p> <p>18 実践</p> <p>19 A.建築デザイン</p> <p>20 演習</p> <p>21 E.修復・防災・エネルギー</p> <p>22 演習</p> <p>23 D.不動産・経営・税金</p> <p>24 演習</p> <p>25 実践</p> <p>26 B.都市計画</p> <p>27 実践</p> <p>28 総合</p> <p>29 実践</p> <p>30 実践</p>

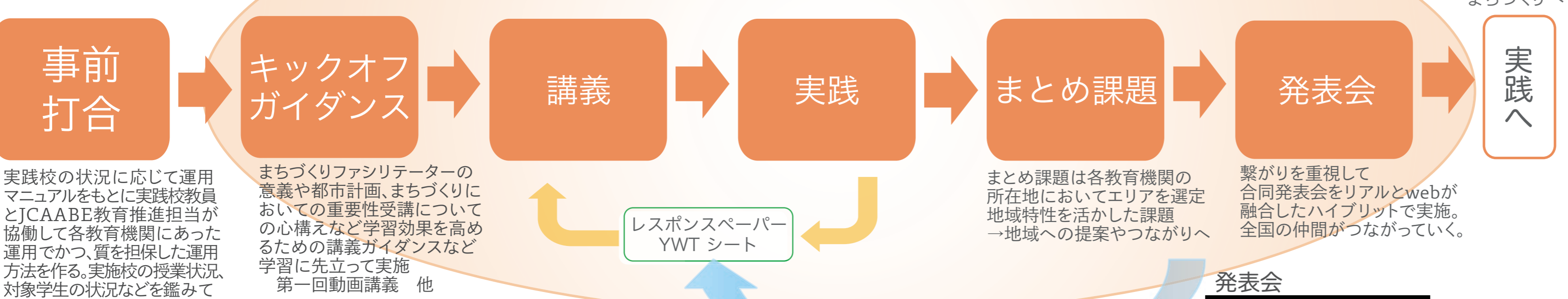
T字型人材育成:人材育成モデル



T型人材増:目的を持ったコミュニケーション力。
 ○幅広い知識と提案できる専門力。
 ○ビジネスから法律に至るまでの幅広い内容。
 ○提案できるコミュニケーション能力。
 ○更なる専門家に繋ぐ能力。
 ○先行して育ちつつある社会福祉分野地域リーダーと繋がり要求に応える建築の専門性を持った人材へ。

講座実践の基本的な流れ

講義の担当者:認定まちづくり適正建築士
 講義の担当者はJCAABEの認定まちづくり適正建築士が行うことが義務付けられており、講座の質を担保するための講義ガイダンスなど学習に先立って実施



講義(オンデマンド)



実践



テキスト

実践者・研究者・教育者による実践的なテキスト



講義動画

スキマ時間視聴をする考えて分割して作成スマートフォンでも見える大きめのテロップ講義動画は基本教科書執筆者が担当



わかり易くする工夫

イラスト・漫画・動画



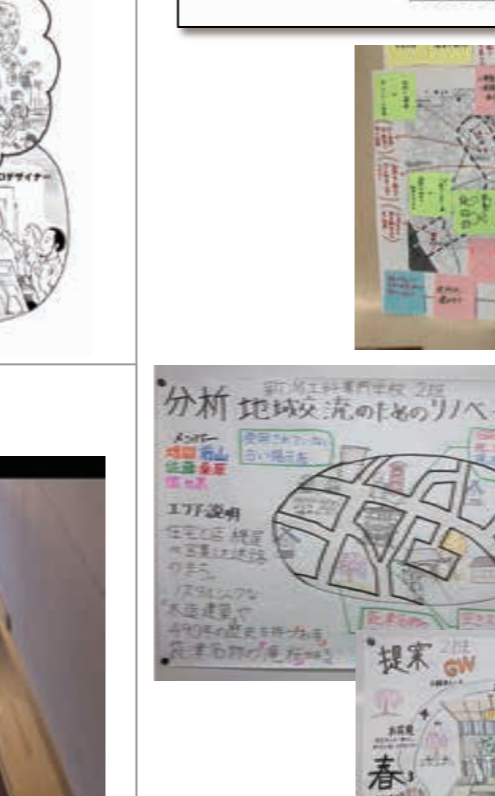
実践課題

実務者・研究者が作成した実践的な課題



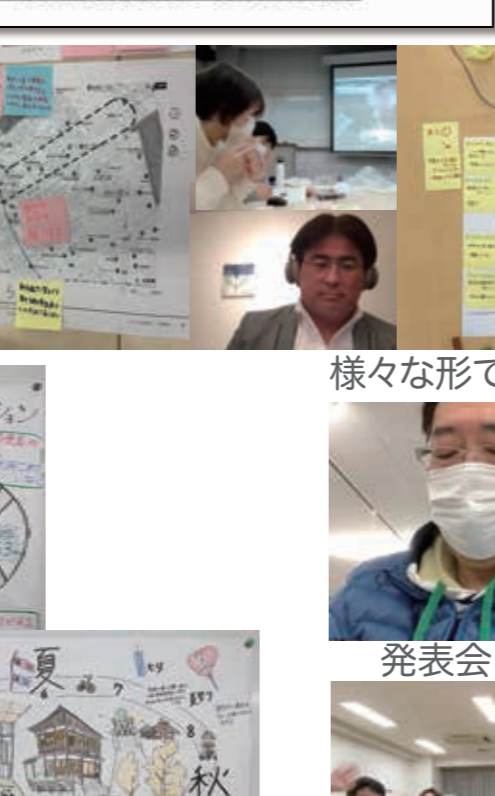
見学動画の工夫

疑似体験できるような構成



実践課題

「エリア内でサイトを決めて街の」たらから」と「あら」を使ってそれらを生かした提案をしてみよう!



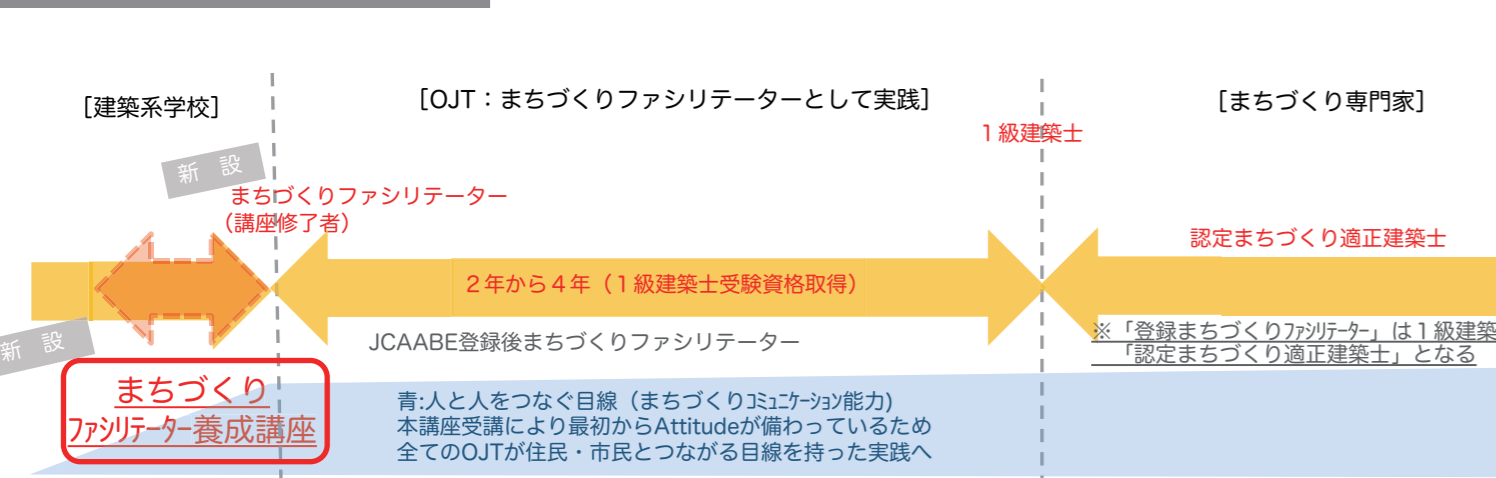
運用マニュアル

運用マニュアル掲載事項



○未来へ

人材育成のキャリアストーリー

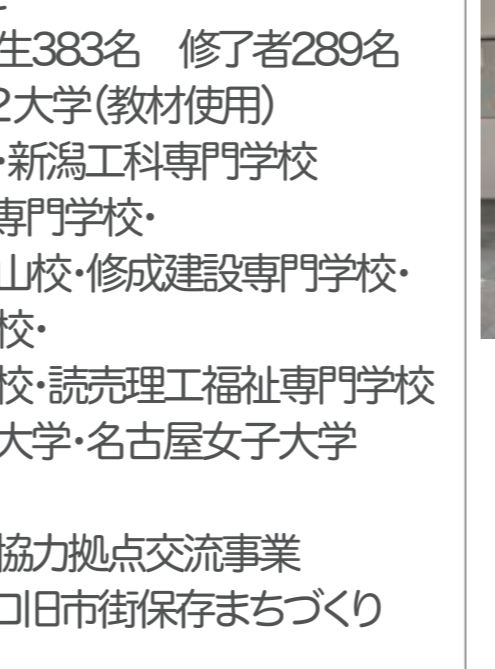


まちづくり人材育成のキャリアストーリーを作成し公開
 学び直しやキャリアアップなど、未来につながるキャリアストーリーを提示

受講生の広がり

4年間で講座に参加した
 学生383名 修了者289名
 専門学校 8校 + 2大学(教材使用)
 日本工学院専門学校・新島工科大学
 ・麻生建築&デザイン専門学校
 ・東海工業専門学校金山校・修成建設専門学校
 ・静岡産業技術専門学校
 ・岡山理科大学専門学校・読売理工福祉専門学校
 教材使用 立命館大学・名古屋女子大学
 令和3-4年 文化庁文化遺産国際協力拠点交流事業
 カイロ旧市街保存まちづくり

社会人のキャリアアップ機会の提供



海外でのまちづくり人材育成へ



令和3-4年 文化庁文化遺産国際協力拠点交流事業
 カイロ旧市街保存まちづくり/住民参加のまちづくり
<https://jcaabe.org/page-2377/>

【JCAABE まちづくりファシリテーター養成講座、日本建築学会教育賞、工学教育賞受賞報告祝賀会 ／日常と非常時をつなぐデザインコンクールキックオフ会：2024年7月5日】

【JCAABE まちづくりファシリテーター養成講座、日本建築学会教育賞、工学教育賞受賞報告祝賀会
／日常と非常時をつなぐデザインコンクール・キックオフ会】

20240622

「JCAABE 建築系まちづくりファシリテーター養成講座」のこれまでの活動に対して、2024年度日本建築学会教育賞(教育貢献)、2023年度日本工学教育協会工学教育賞(業績)を受賞しました。これも関係者、皆様方のご協力の賜物です。その内容報告祝賀会を行います。併せて今年度、「JCAABE 建築まちづくりデザインコンクール／日常と非常時をつなぐデザイン」を実施し、そのご説明、キックオフ会を開きます。

是非、ご参加いただき、JCAABE の活動のご理解を深めると共に、繋がりを作っていただければと思っています。

- ・日時:2024年7月5日(金)18:30~21:00
- ・場所:JIA 館1階、建築家クラブ(渋谷区神宮前2-3-18)
- ・対面及び ZOOM 配信 ※録画し編集しHPに掲載
- ・対象:JCAABE 会員、関係者、友人、知人、学生、出版メディア
- ・参加費:1000円、(学生 500円)

■プログラム(17:30~準備、18:15~受付)

- 18:30~主催者挨拶(連)
 - まちファン講座内容説明(松村)
 - 祝辞、コメント
 - ・三井所清典氏(建築家・JCAABE 特別顧問)
 - ・仙田清氏(建築家・知的生産者選定支援機構)
 - ・青木茂氏(建築家・リファイニング建築・再生協会)

■歓談

- 建築まちづくりデザインコンクール説明(山本+学生)
- 審査員、共催者、協賛、協力者、紹介
 - 共催:総合資格、協賛:イカガミ、三浦製材、ArtGallery&Lesion(三上)
 - 日本空気保健協会(加藤)
 - 協力:クワイテリア検討会、学生実行委員
- 挨拶(連)
- 21:00 ※集合写真

●JCAABE 日本建築まちづくり適正支援機関は良質な建築、美しいまちづくりを目指して設立された社会福祉財団の一般社団法人です。大切にしているのは、つなげる、です。空き家、空き地の課題や、まちづくりの課題には、人と人をつなぐと共に、建築とまちづくりをつなげる、が必要です。この中で、専門家は同じ目の高さで語り、人々の参加を押し進め、持続可能な建築まちづくりを目指しファシリテーターの役割が求められます。当コンクールのテーマは、日常と非常時をつなぐデザインです。一教員は既に建っている建築、現在行われているまちづくり活動を対象とするコンクール、学生部門よりアイデアコンペです。多くの参加を期待しています。

■ZOOM参加の方
<https://url2web.zoom.us/j/89592421975?pwd=52AwFkUjNkUkVpMmRoaDZpZjI0aDZkdz09>

ミーティング ID: 895 9242 1975
 パスワード: 844315



JCAABE

建築まちづくりコンクール Architecture & Machizukuri Design Contest 2024

いまもしも 日常と非常時を つなぐデザイン

テーマ

応募締切

9/17

Tue.

本コンクールは、すべての生活環境をより安心で優れたものとしていくために、まちづくりにおいて自然災害などの「非常時」に備えるだけではなく「日常」においても生活の豊かさに結びつくような建築・施設・物品といったハードウェア、あるいは活動やシステムなどのソフトウェアのアイデアを広く公募し、表彰を通して社会に発信していくことを目的とするものです。

これまでのまちづくりにおける「防災」が、非常時への最も効果的な備えのために日常に負荷をあたえるような施策になりがちであったことに対して、よりゆるく、楽しく、日常も豊かにしながら非常時にも役に立つようなアイデアをとりいれ、「防災」という概念自体をリデザインしていこうという試みですので、既存の概念や原則にとらわれず、自由なお考えで積極的にご応募いただければと存じます。

賞
最優秀賞 各部門 1点/賞金10万円
作品展示会における展示
「住まいのGoodAirEXPO」発表(学生部門のみ)
審査員賞 各部門6点/賞金3万円
作品展示会における展示
入賞各部門 3点
公開審査会・作品展示会における展示

9月17日	応募者/作品 データ登録
9月30日	一次審査結果発表
10月27日	公開審査会
11月 1日	住まいのGoodAirEXPO
11月21日	作品展示会
11月26日	

日時	2024年10月27日 (Sun.)
学生部門	10:00~12:30
一般部門	12:30~13:30 懇親会
公開審査会	14:00~17:00
会場	17:00~18:00 懇親会
会場	総合資格学院 新宿校 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル3F

JCAABE建築まちづくりデザイン・コンクール2024 — 日常(いま)と非常時(もしも)をつなぐデザイン —

一般部門では、すでに実現し、優れた役割を果たしているようなハードウェア(建築、広場等)やソフトウェア(まちづくり活動)の事例を募集します。対象となる条件を厳密には定めませんので、少しでも「日常と非常時をつなぐ」という観点でアピールできそうな事例であればどのようなものであっても構いません

学生部門では、学生を対象に、架空のアイデア、構想、あるいは研究活動として実際にまちと関わり試みているプロジェクトなどを募集します。「日常と非常時をつなぐ」というキーワードに結び付くアイデアであれば何でも結構ですので、自由にアグレッシブにご提案ください

審査員

一般部門



学生部門



モデレーター



HP・詳細はこちら



一般部門 ※詳細について、かならずコンクールHPにある要項をご確認ください

応募資格者

以下の①～③を満たす個人や団体、自治体等。

- ①応募する作品、活動等のデザイン、企画、運営、マネジメントのいずれかに関わった者であること
- ②応募者を代表として本応募を行うこと、また各関係者の情報、プロジェクトの情報等が本コンクールを通して公開されることについて、対象物の所有者およびプロジェクトの各関係者の合意を得ていること
- ③2024年10月27日(日)総合資格学院新宿校にて開催される公開審査会に代表者が現地参加できること(一次審査を通過した場合)

作品条件

プロジェクトデータはプレゼンテーションシート(PDFファイルA3横使い1枚)か、動画、またはその両方で作成してください。

以下の①～⑥の全てを満たすことを応募作品の条件とします。

- ①建築・まちづくりに関する、日常と非常時をつなぐデザインであること
- ②すでに実現しているものであり、建築・施設・物品といったハードウェア、あるいは活動やシステムなどのソフトウェアのいずれか、または両方を含むこと
- ③提出物(プロジェクトデータ)内に以下の内容を正確に示すこと
プロジェクト名称(施設名・活動名・システム名等) /所在地または対象エリア /完成・実施年 /関係者(団体)概要(事業者・所有者・設計者・企画者・施工者・運営者・協力者等) /建造物の構造・規模等
- ④コンセプトやプロジェクトの全体像が、わかりやすく示されていること
- ⑤提出物に用いる写真や図版に他者の著作物を用いる場合は、著作権者の許可を得ていること
- ⑥個人のプライバシーや個人情報等に配慮すること

応募方法とスケジュール

STEP 1 | 応募者データ登録(2024年9月17日23:59まで)

ホームページより応募者データ、作品データを登録する

STEP 2 | プロジェクトデータ提出(2024年9月17日23:59まで)

ホームページよりプロジェクトデータを提出する

一次審査提出物(以下のいずれか)

A_ プレゼンテーションシート PDF ファイル A3 よこ使い 1 枚 (10MB 以内)

B_ 動画 3 分以内 (600MB 以内)

C_ プレゼンテーションシート PDF ファイル A3 よこ使い 1 枚 (10MB 以内)

+ 動画 90 秒以内 (300MB 以内)

※動画のデータ形式については mov もしくは mp4 としてください。

登録・提出ホームページ

<https://jcaabe.org/contest2024/> (QRコードを参照)

・公開審査会(一般部門)

内容: 上位作品7点の応募者によるプレゼンテーション

日時: 2024年10月27日(日) 14:00~17:00 (17:00~18:00 懇親会)

場所: 総合資格学院新宿校(東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル3F)

・作品展示会

内容: 一般部門、学生部門の受賞、入賞作品(各10点)を公開展示します

日時: 2024年11月21日(木)~26日(火) 12:00~18:00(最終日は17:00まで)

場所: art gallery & Legion(東京都千代田区神田神保町2-11 三橋ビル1F)

審査員

市古太郎 東京都立大学都市環境科学研究科教授 / JCAABE 特別顧問

岩瀬涼子 建築家 / 岩瀬涼子設計事務所主宰 / 京都大学助教

田中元子 株式会社グランドレベル 代表取締役社長

三井所清典 建築家 / アルセッド建築研究所主宰

連健夫 JCAABE 代表理事 / 建築家

山本想太郎 (モデレーター) 建築家 / 山本想太郎設計アトリエ / JCAABE

本コンクールについてのご連絡先

「JCAABE 建築まちづくりデザイン・コンクール実行委員会」

一般社団法人 日本建築まちづくり適正支援機構内

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-11-4 日本橋吉泉第二ビル5階

電子メール jcaabecontest@gmail.com



学生部門 ※詳細について、かならずコンクールHPにある要項をご確認ください

応募資格者

以下の①～③全てを満たす個人やグループ。※グループ応募の場合はメンバー全員が条件を満たすこと

- ①2024年4月1日の時点で、大学院、大学、短期大学、高等専門学校、専修学校(各種学校)の学生
- ②2024年10月27日(日)総合資格学院新宿校にて開催される公開審査会に代表者が現地参加できること(一次審査を通過した場合)
- ③2024年11月1日(金)丸の内トラストタワーにて開催される「住まいの GoodAirEXPO」での公開プレゼンテーションに代表者が現地参加できること(最優秀作品に選定された場合)

作品条件

作品データはプレゼンテーションシート(PDFファイルA3横使い1枚)か、動画、またはその両方で作成してください。

以下の①～⑧の全てを満たすことを応募作品の条件とします。

- ①建築・まちづくりに関する、日常と非常時をつなぐデザイン・アイデアであること
- ②建築・施設・物品といったハードウェア、あるいは活動やシステムなどのソフトウェアのいずれか、または両方に対する提案を含むこと
- ③実在する特定の場所(国内)を想定していること
- ④作品には必ずタイトルを付け、明記すること。またコンセプトや全体図(CGやイラスト、図面や模型写真等)がわかりやすく示されていること
- ⑤現在進行中のプロジェクトや、すでに実施したプロジェクトの応募も可
- ⑥提出物に用いる写真や図版に他者の著作物を用いる場合は、著作権者の許可を得ていること
- ⑦個人のプライバシーや個人情報等に配慮すること
- ⑧提出シートデータ、動画データ内には、氏名や大学名など応募者が特定できる情報を記載しないこと

応募方法とスケジュール

STEP 1 | 応募者データ登録(2024年9月17日23:59まで)

ホームページより応募者データ、作品データを登録する

STEP 2 | 作品データ提出(2024年9月17日23:59まで)

ホームページよりプロジェクトデータを提出する

一次審査提出物(以下のいずれか)

A_ プレゼンテーションシート PDF ファイル A3 よこ使い 1 枚 (10MB 以内)

B_ 動画 3 分以内 (600MB 以内)

C_ プレゼンテーションシート PDF ファイル A3 よこ使い 1 枚 (10MB 以内)

+ 動画 90 秒以内 (300MB 以内)

※動画のデータ形式については mov もしくは mp4 としてください。

登録・提出ホームページ

<https://jcaabe.org/contest2024/> (QRコードを参照)

・公開審査会(学生部門)

上位作品7点の応募者によるプレゼンテーション

日時: 2024年10月27日(日) 10:00~12:30 (12:30~13:30 懇親会)

場所: 総合資格学院新宿校(東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル3F)

・作品展示会

内容: 一般部門、学生部門の受賞、入賞作品(各10点)を公開展示します

日時: 2024年11月21日(木)~26日(火) 12:00~18:00(最終日は17:00まで)

場所: art gallery & Legion(東京都千代田区神田神保町2-11 三橋ビル1F)

・「住まいの GoodAirEXPO」における公開プレゼンテーション

最優秀賞の受賞者の公開プレゼンテーション(10分間)とトークイベント

日時: 2024年11月1日(水) 11:30~12:30(詳細は後日調整)

場所: 住まいの GoodAirEXPO 会場

(東京都千代田区丸の内1-8-1 丸の内トラストタワー N 館19F)

審査員

泉山盛威 日本大学理工学部建築学科准教授 / 一般社団法人ソトノバ Co-CEO & Founder

川島範久 明治大学准教授 / 川島範久建築設計事務所代表

津川恵理 建築家 / ALTEMY 代表

中川エリカ 中川エリカ建築設計事務所代表 / 慶應義塾大学大学院専任講師

西田司 オンデザイン / 東京理科大学准教授

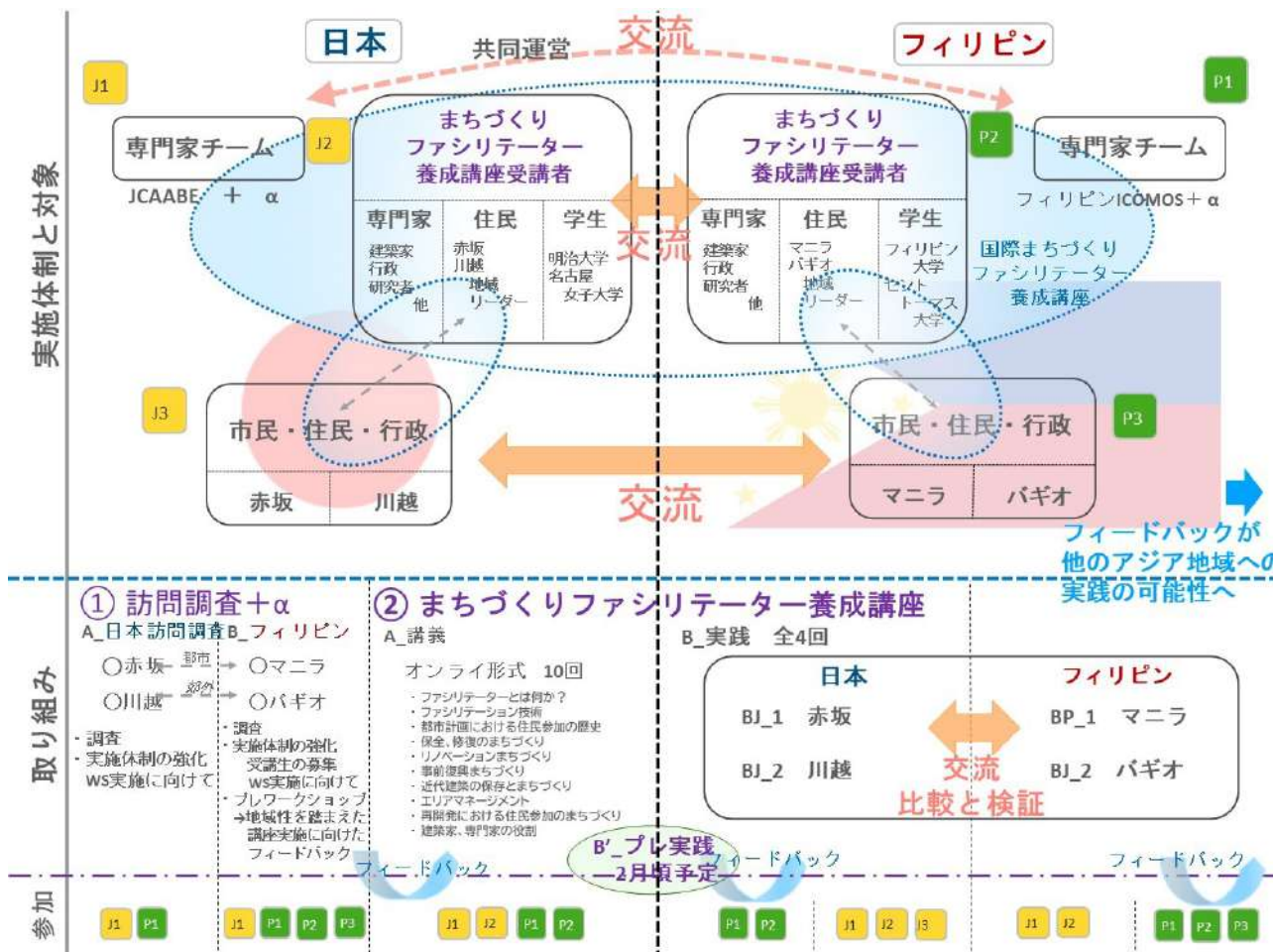
山本想太郎 (モデレーター) 建築家 / 山本想太郎設計アトリエ / JCAABE

JCAABE日本建築まちづくり適正支援機構は良質な建築・美しいまちづくりを目指して設立された社会課題解決型の一般社団法人です。大切にしているのは、**つなげる**、です。空き家、空き地の課題や、まちづくりの課題には、**人と人をつなぐ**と共に、**建築とまちづくりをつなげる**、ことが必要です。この中で、専門家は同じ目の高さで関わり、人々の参加を推し進め、持続可能な建築まちづくりを目指すファシリテーターの役割が求められます。当コンクールのテーマは、日常と非常時をつなぐデザインです。一般部門は既に建っている建築、現在行われているまちづくり活動を対象とするコンクール、学生部門はアイデアコンペです。多くの参加を期待しています。

※JCAABEまちづくりファシリテーター養成講座2024年度日本建築学会教育賞、2023年度工学教育協会工学教育賞を受賞しました。

開発と保存まちづくりの調和を目指す住民参加の人材育成と JCAABE まちづくりファシリテーター養成講座の国際化の事業

1. プロジェクト見取図



「課題と目的」

建築まちづくりにおいて、アジアの共通課題は、開発事業により地域の歴史的建築物、伝統文化や生活、コミュニティが侵され、軋轢が生じていると共に、地域の特徴が無くなってきている現状である。行政も開発業者と住民との間に話し合いの場を用意できず、行政と専門家と住民を繋げる専門家が存在していないことが課題となっている。そこで、当事業の目的は、

- ① 開発事業のプロセスやまちづくりにおいて、住民参加の仕組みを構築すること、
- ② 住民と専門家と行政を繋ぐまちづくりファシリテーターの人材を養成すること、
- ③ JCAABEが開発した「まちづくりファシリテーター養成講座※」を日本とフィリピンで実施することにより、国際的な展開にカスタマイズ可能にすること。
- ④ 日本およびフィリピンにおける大都市と郊外都市でワークショップを実施することにより、開発と保存の適切なバランスを見つけること。特に喫緊の課題であるバギオ市の開発と保存まちづくりへの対応策を見出す。
- ⑤ 将来の担い手である学生の参加により、人的交流、団体間及び大学間の連携を作り、持続可能性を持たせる。

。 ※2019年文科省事業を経て開発、2023年工学教育賞、2024年度日本建築学会教育賞受賞



「活動内容とその方法」

【前期：調査・分析・共有】

①プロジェクト参加者でオンラインで意見交換会を実施し、日本とフィリピンの開発と保存まちづくりとの関係、住民参加の状況など、課題と状況を共有する。②日本の専門家・住民がフィリピン訪問、マニラ（大都市）とバギオ（郊外）の見学と実態調査をすると共に、専門家と住民との意見交換会を実施し、課題を共有する。特にバギオ市の現状の課題を掘り下げ共有する。③フィリピンの大学で講演を行い、まちづくりファシリテーター養成講座を説明すると共に参加者を募る。

【中期：相互交流と学びあい、解決策検討】

④まちづくりファシリテーター養成講座のオンラインレクチャー1～10を実施し、学びと共にディスカッションを通して交流する、これは、日本とフィリピンの相互訪問を重ねて実施することにより、学びを活かしたワークショップ実践が可能となる。

⑤フィリピン専門家と住民と学生が日本を訪問し、東京（大都市）と川越（郊外都市）の見学と実態調査をすると共に、専門家と住民との意見交換会を通して相互交流を行う。学生は東京と川越のフィールドワーク（テーマはタカラとアラの発見）を行い、発表会を通して住民と専門家と共に、特徴と課題を浮き彫りにする。⑥日本の専門家と学生がフィリピンを訪問、マニラ（大都市）とバギオ（郊外都市）でフィリピンの学生と共にフィールドワーク（テーマはタカラとアラの発見）を行い、日本とフィリピンの専門家と共に、発表会を通して、解決策を検討する。特にバギオ市の開発と保存のバランスの良いまちづくりの仕組みを提案する。

【後期：成果の発信、政策提言】

⑦フィリピンの専門家、住民、学生が日本を訪問し、東京と川越で、日本の専門家と住民と一緒にワークショップを実施する。テーマは、タカラを活かして、アラを解決する提案を考える。特にバギオ市の保存まちづくり活動の下地を作る。

⑧オンラインシンポジウムを実施して、日本とフィリピンの専門家と住民とで提案を共有すると共に、現実はどう落とし込むかをディスカッションする。まちづくりファシリテーター養成講座の履修者に修了証を授与する。これは録画、編集して、日本のJCAABEのhome pageで公開し、誰でもが観ることができるようにする。⑨報告書を日本語と英文との併記でまとめ、双方で共有し、関係者に展開する。⑩日本の大学とフィリピンの大学とで提携して、まちづくりファシリテーター人材養成を持続可能にする。※修了証は、受講者へのモチベーションになる。

カイロで実施した「まちづくりファシリテーター養成講座」の修了証、アンケート、授与式の様子



2022-6-14 【MACHIZUKURI Facilitator
The first lecture】 —response paper—

1. Make a 1000-character summary of the main points of the lecture. (Please use the following form to write your response.)

2. Please describe the main points of the lecture in your own words.

3. Please describe the main points of the lecture in your own words.

4. Please describe the main points of the lecture in your own words.

5. Please describe the main points of the lecture in your own words.

6. Please describe the main points of the lecture in your own words.

7. Please describe the main points of the lecture in your own words.

8. Please describe the main points of the lecture in your own words.

9. Please describe the main points of the lecture in your own words.

10. Please describe the main points of the lecture in your own words.



4. 課題 プロジェクトで取り組む課題とその現状についてお書きください。

アジアの都市の共通の課題は、近代化と保存まちづくりのバランスの欠如である。経済優先の都市開発により、昔ながらの街並みが無くなると共に、歴史的建築物もその価値が理解されずに取り壊されている現実がある。開発業者と住民との軋轢が様々な所で生じており、再開発賛成派と反対派によるコミュニティ分断も大きな問題となっている。再開発における地下の高騰により、今まで住んでいた住民が住むことができずそこを離れるというジェントリフィケーションも問題である。

●東京では、高度利用において様々な所で再開発が行われており、昔ながらの路地のある街並も無くなりつつある。

●郊外都市、川越市は、東京からの通勤圏でもあり、マンション建設が行われ、蔵の街を活かしたまちづくりとの軋轢を生んでいる。●フィリピン、マニラでは近代化における高層化とその周りに生じているスラム

化が大きな問題となっている。スラムクリアランスによって住まいが無くなる住民についての配慮を含めた都市政策が求められており、多くの矛盾を抱えている。



フィリピン、バギオの課題・問題

世界的建築家、パーナムが設計したバギオの街並の保全が、再開発事業によって、危機に瀕している。



■建築家、ダニエル・パーナム (1846~1912)

アメリカ、シカゴ派の屈指の建築家、多くの高層ビルの設計実績からシカゴ博覧会の設計責任者として成功し、世界的名声を得た。都市計画において、都市美 (City Beautiful Movement) をコンセプトにシカゴ計画、サンフランシスコ、マニラ、バギオの都市計画を行なった。バギオはフィリピンの夏期の首都として、またアメリカの植民地政策の拠点として重要な歴史的レガシーである。

●建築家パーナムのバギオ都市計画(1905年)と現状の課題・問題点、(公園広場内駐車場A、緑地内のバス駐車場BやビルC、市場の再開発D、過密住居E、道路渋滞F、空き遺産G、等)を重ねた図。

バギオ市現状地図



（取り組む課題の背景、解決や状況の改善を妨げている要因等の分析）

これらの課題解決に必要なのは、①まちづくりに関して住民参加を推し進めることである。住民参加により、住民自身が自分たちの街は自分たちで作るという当事者意識が生まれ、そのプロセスにおいて、建築や街の価値について理解が進み、保存まちづくりが可能となる。②住民参加は、住民と行政と専門家を繋ぐ役割としてのファシリテーターが求められるが、専門家もそのことの知識が少ない。JCAABEには、まちづくりに関する専門を有していると共に、文部科学省の委託事業で開発した「まちづくりファシリテーター養成講座」があり、それによる人材育成が可能である。

「令和5年度 東京都地域の活力発掘事業」対象事業

令和5年度 港区麻布町会・自治会連合会 交流会

「再開発と町会・自治会」ワークショップ

“まちづくりと住民のつながりを考えてみよう”の記録

発行：令和6年3月 港区麻布町会・自治会連合会

今年度の交流会は、港区などでまちづくりを支援する連（むらじ）さんの講演を参考に、再開発に伴う町会・自治会の課題について考え、人やまちとのつながり方とその機会の作り方について、様々なアイデアを出し合いました。

麻布地区の方々だけでなく、区内の他地区や区外から参加された方もあり、第2部のワークショップでは、様々な視点からのアイデアが出されて盛り上がりしました。

今回のアイデアを参考に、みなさんのまちで何か一つでも、最初の一歩を始めてみませんか。



【開催概要】

主催：港区麻布町会・自治会連合会	次第：	13:30	開会挨拶
		13:40	<第1部>
日時：令和6年2月10日(土)			再開発に関する町会・自治会の対応に関するセミナー
		13:30~15:30	
		14:20	休憩

第1部 再開発に関する町会・自治会の対応に関するセミナー

講演「まちづくりで対話の機会をつくる」

※写真提供：建築系まちづくりファシリテーター養成講座

港区などでまちづくりを支援する連（むらじ）さんから、多くの再開発やマンション建設が進む港区において、建設側や新住民と周辺住民との対話がまちづくりに大切なことと、コミュニケーションの機会を如何に作るかについてお話しいただきました。

【講師】 連 健夫（むらじ たけお）さん

（右） 建築系まちづくりファシリテーター養成講座
一般社団法人日本建築系まちづくり適正支援機構代表理事
早稲田大学、芝浦工業大学非常勤講師
港区麻布まちづくりコンサルタント、港区景観アドバイザー
1956年京都市生まれ、東京理科大学大学院修了の後、建設会社13年勤務、その後手がきつたこととなり、1991年に渡米、A.Aスクール留学、A.A大学建築学学位を取得の後、同校助手、在米日本大使館員を経て、1996年に帰国。（右）建築系まちづくりファシリテーター養成講座と共に、まちづくりに関わっています。



赤坂通りまちづくりの会のまちづくり条例に沿った取り組み

「港区まちづくり条例」は、地域独自のまちづくり活動を推進することができます。赤坂通りまちづくりの会は、登録まちづくり協議会として、住民が参加して地域の特性を活かした取り組みを進めています。

対話①：まちの「タカラ（良い点）」と「アラ（悪い点）」を見つける！

- 住民自らが地域の特性を理解す

JCAABE まちづくりファシリテーター養成講座実施委員会
「建築系まちづくりファシリテーター養成講座」の開発と実践

正会員	連 健夫	殿
正会員	松 村 哲	殿
正会員	野 澤 康	殿
正会員	市 古 太 郎	殿
正会員	阿 部 俊 彦	殿

本教育活動は、まちづくりに求められる建築系ファシリテーター育成のための教材・方法の開発とそれをもとにした全国の高等教育機関等での実践である。

その取り組みの特徴は、まちづくりに関連した幅広い分野の講演とそれに関連した実践を繰り返して行う体験型教育のシラバス、プログラム・方法、教材の開発と実践にある。特に「時間・距離・人」に左右されない学習方法を視野に、オンライン・オンデマンドを用いて現地の教育者が専門家と繋がり協働するハイブリッド型の授業運用や動画教材の開発がなされており、様々な場所、機関、時期（学び直し）での普及を可能とするとともに全国展開する上での教育の質の担保が図られている。

この取り組みは2019年文部科学省委託事業専修学校による地域産業中核的人材育成事業としてスタートし、幅広い分野の実践者、研究者、教育者による事業実施委員会において整備が進められた。2021年からはその成果を引き継ぐたちで一般社団法人 日本建築系まちづくり適正支援機構（JCAABE）が活動主体となり各地域に根差した教育機関と協働して養成講座の実践が推進されており、全国各地域から海外にまでその広がりを見せている。

2020年から始まった建築系高等教育機関での実践は、2023年現在全国8校の専修学校での講座の実施、大学2校で教材として講座テキストの活用がなされており、2022年までの講座参加学生数は383名、修了者は289名を数えている。2021年にはオンラインによる講座が開始され、社会人の学び直し講座としても活用が進んでいる。

地域社会のコミュニティの活性化や都市の再生など日本が直面する社会課題の中で、現在の「まち」における諸問題を解決するとともに自らが住むまちを自らが作っていくという創造的な活動の活性化は重要である。まちづくりファシリテーターの役割は、まちづくりの主役である住民・市民と行政、専門家をつなぎ、協働してまちづくりを推進していくうえで今後ますますその重要性を増していくであろう。ファシリテーターはまちづくりの幅広い知識や技術とともに市民とつながる態度（Attitude）を身に付けることが必須であるという。そのことを人材育成の中心に据え、これまでになかった全国展開可能なまちづくりファシリテーター養成プログラムを策定・実践し、成果を出しつつある本取り組みはその先進性、独自性、運営上の工夫において斬新な教育活動であるといえる。

よって、ここに日本建築学会教育賞（教育貢献）を贈るものである。

2024年日本建築学会教育賞（教育貢献）、2023年日本工学会協会工学教育賞（業績）受賞

JCAABEまちづくりファシリテーター養成講座実施委員会
「建築系まちづくりファシリテーター養成講座」の開発と実践

建築系まちづくりファシリテーター養成講座の開発と実践

社会的意義・目的と概要 「つなぐ」をテーマにした促進者の育成

都市、地域づくりの課題、課題として「活気あるまちづくり」「住み続けられるまちづくり」「人（住民）が「思い」をもち、まちづくりに参加し、まちづくりを推進する」という、地域社会の活性化や都市の再生など日本が直面する社会課題の中で、現在の「まち」における諸問題を解決するとともに自らが住むまちを自らが作っていくという創造的な活動の活性化は重要である。まちづくりファシリテーターの役割は、まちづくりの主役である住民・市民と行政、専門家をつなぎ、協働してまちづくりを推進していくうえで今後ますますその重要性を増していくであろう。ファシリテーターはまちづくりの幅広い知識や技術とともに市民とつながる態度（Attitude）を身に付けることが必須であるという。そのことを人材育成の中心に据え、これまでになかった全国展開可能なまちづくりファシリテーター養成プログラムを策定・実践し、成果を出しつつある本取り組みはその先進性、独自性、運営上の工夫において斬新な教育活動であるといえる。

事業の経緯 調査・開発・実践・未来へ 段階を踏まえた人材育成



2019 2020 2021 2022 2023 未来へ



事業実施委員会 多様な実践者・研究者・教育者

連 健夫 (一般社団法人日本建築系まちづくり適正支援機構代表理事)	松 村 哲 (早稲田大学)	野 澤 康 (早稲田大学)	市 古 太 郎 (早稲田大学)	阿 部 俊 彦 (早稲田大学)
-----------------------------------	---------------	---------------	-----------------	-----------------

調査 調査結果・調査方法の概要

- 調査結果・調査方法の概要
 - 調査結果
 - 調査結果①：まちづくりの現状と課題
 - 調査結果②：まちづくりの推進方法
 - 調査結果③：まちづくりの推進体制
 - 調査結果④：まちづくりの推進意識
 - 調査方法
 - 調査方法①：アンケート調査
 - 調査方法②：インタビュー調査
 - 調査方法③：ワークショップ
 - 調査方法④：フィールド調査

開発 まちづくりファシリテーター人材育成のイメージ



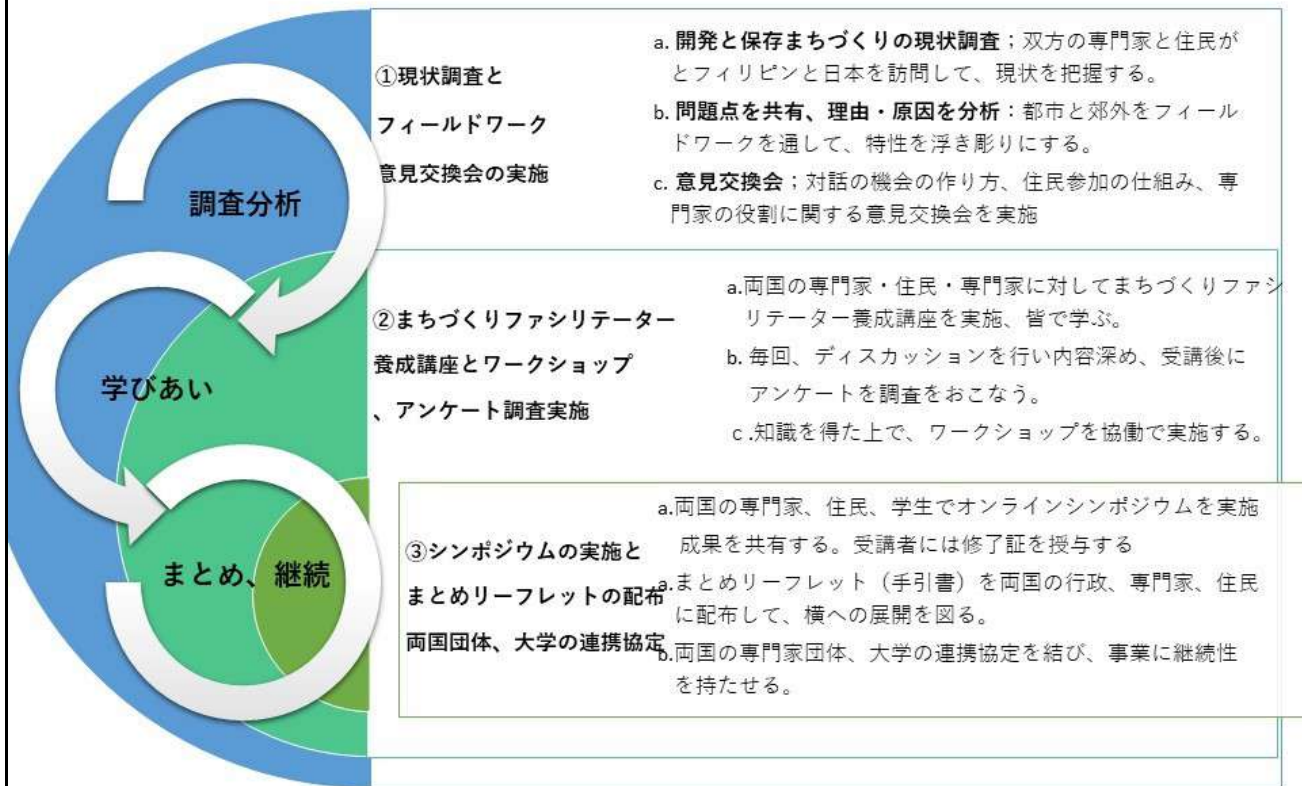
開発・実践に向けたPOINT

- 1. 丁寧な人材育成を促進する人材育成
 - 地域社会の活性化や都市の再生など日本が直面する社会課題の中で、現在の「まち」における諸問題を解決するとともに自らが住むまちを自らが作っていくという創造的な活動の活性化は重要である。
 - 調査結果・調査方法の概要
 - 調査結果①：まちづくりの現状と課題
 - 調査結果②：まちづくりの推進方法
 - 調査結果③：まちづくりの推進体制
 - 調査結果④：まちづくりの推進意識
 - 調査方法
 - 調査方法①：アンケート調査
 - 調査方法②：インタビュー調査
 - 調査方法③：ワークショップ
 - 調査方法④：フィールド調査

5. 活動内容とその目的と方法 本プロジェクト期間中に予定している主な活動内容と各活動の実施方法・目的について説明してください。

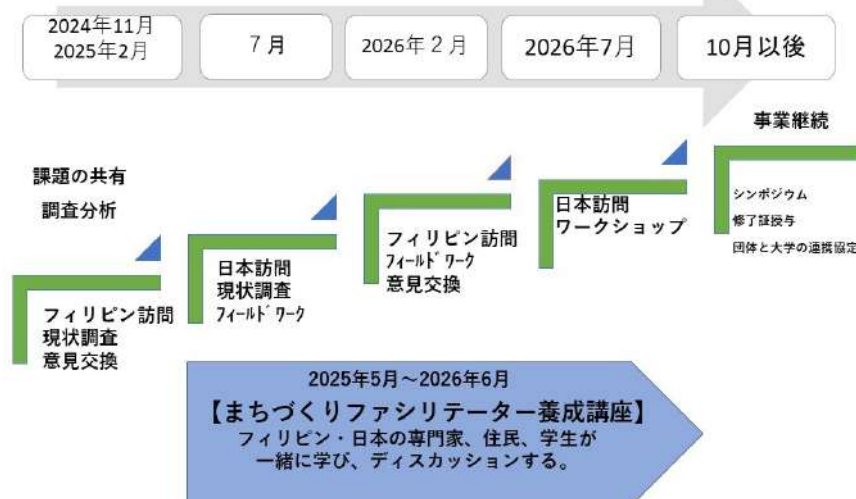
プロジェクトの活動内容として、前期は①現状調査として、日本側 JCAABE 関係者がフィリピンを訪問、フィリピン側 ICOMOS 関係者が日本を訪問してフィールドワーク、意見交換を実施

事業内容



中期は②まちづくりファシリテーター養成講座を日本側、フィリピン側の関係者、学生に行い、互いに学びあう。その知識を得た上でワークショップを実施し、解決策を見出す。

実施スケジュール：フィリピンと日本を交互に訪問しフィールドワークとワークショップを通して提案に繋げる。これらは並行してまちづくりファシリテーター養成講座からの学びにより活かされる



後期：③シンポジウムを実施して解決策を共有し、成果の発信を持続可能性への道筋を作る。
 まちづくりファシリテーター養成講座のプログラムは下記を予定している。これは、日本とフィリピンの現状を捉えて上でカスタマイズされたものである。これを他のアジアの都市に応用するための展開についても話し合う。それにより、更に広がりのある、開発と保存まちづくりのバランスへの手法や判断基準を得ることが可能となる。

●まちづくりファシリテーター養成講座（オンライン・対面）

1st & 2nd	3rd & 4th	5th & 6th	7th & 8th,	9th & 10th
<ul style="list-style-type: none"> ファシリテーターとは何か？ ファシリテーターの技術 	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画における住民参加の歴史 保全・修復のまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> リノベーションまちづくり 事前復興まちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 近代建築と保存まちづくり 再開発と保存まちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティと観光 建築家、専門家の役割
2025年5,6月	8, 9月	10,11月	12月、2026年1月	3, 5月

意見交換会

オンラインにより、講義の感想コメントレポート、アンケート→

まち歩きフィールドワーク

2022-6-14 【MACHIZUKURI Facilitator The first lecture】—response paper—

Thank you for your participation today. A response paper is requested from all participants to facilitate learning. Please answer the question. Please submit this information as it will be part of the requirements for qualification.

machizukuri@gmail.com アカウントを登録する

メールアドレス *

メールアドレス *

Q1. Please write your name. *

お名前 *

Q2. What is your affiliation? *

講義履修とワークショップ参加により、JCAABEから修了証発行→
 (参加者の写真・サイン)



オンラインまちづくり養成講座



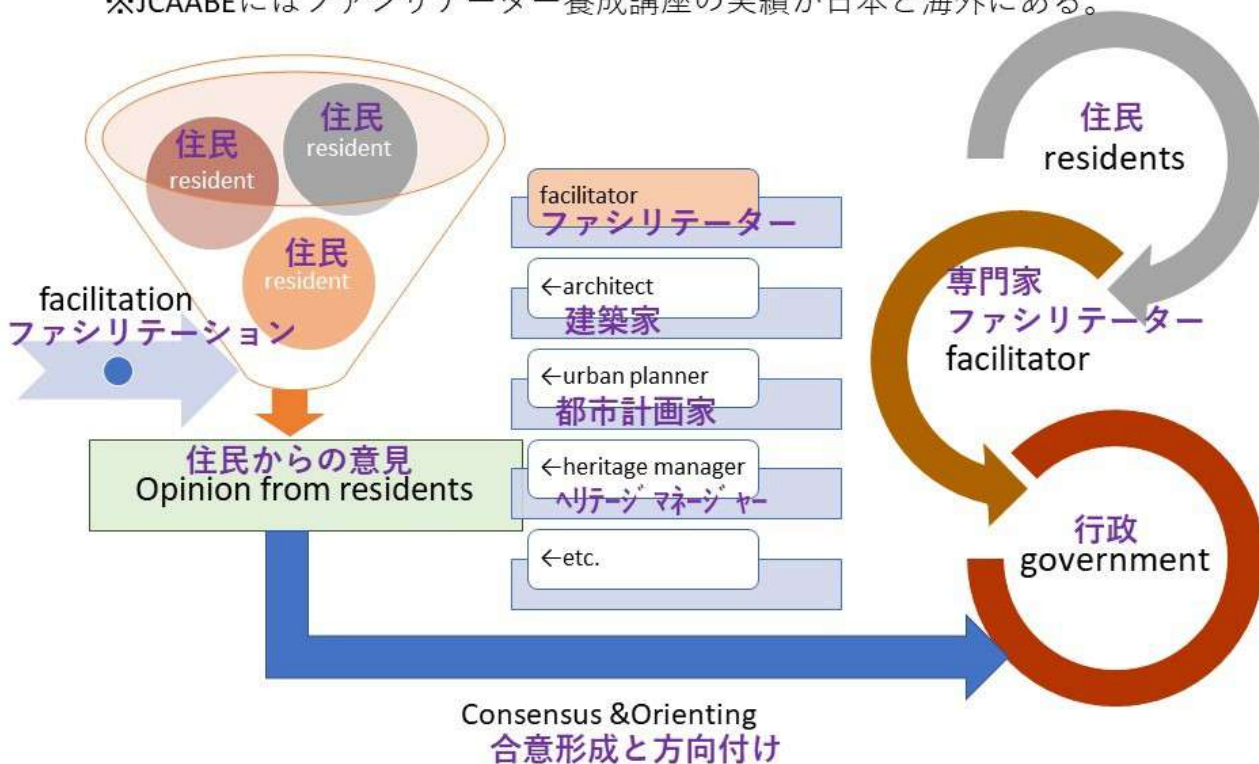
まち歩きフィールドワーク（事例：カイロ）



6. 主たる成果と成果物、その発信方法など 成果と成果物の形態（例：印刷物・ウェブサイト・映像等）発信の方法とその狙い、発信対象、成果発信を通じて期待できる波及効果等を記入してください。

日本とフィリピンの専門家、住民、行政、学生がまちづくりファシリテーターの役割を理解すると共に、そのスキルを得ることができ、実際の開発と保存まちづくり活動に活かすことが可能となる。

- ファシリテーターの役割：ワークショップなどを通して、住民の対話を促し、方向付けを行い、合意形成を行う。住民と行政と専門家を繋ぐ役割。
- ※JCAABEにはファシリテーター養成講座の実績が日本と海外にある。



（主たる成果物の形態、発信の対象および方法等）

- 報告書としてまとめ、成果を共有する。
- リーフレット（手引書）を作成して関係者に配布（漫画、イラストを用いて分かりやすく表現）



JCAABE
一般社団法人日本建築まちづくり協会の支援組織



- JCAABE のホームページで事業の記録と成果を、英文併記でアップし、どこからでも参照できるようにする。

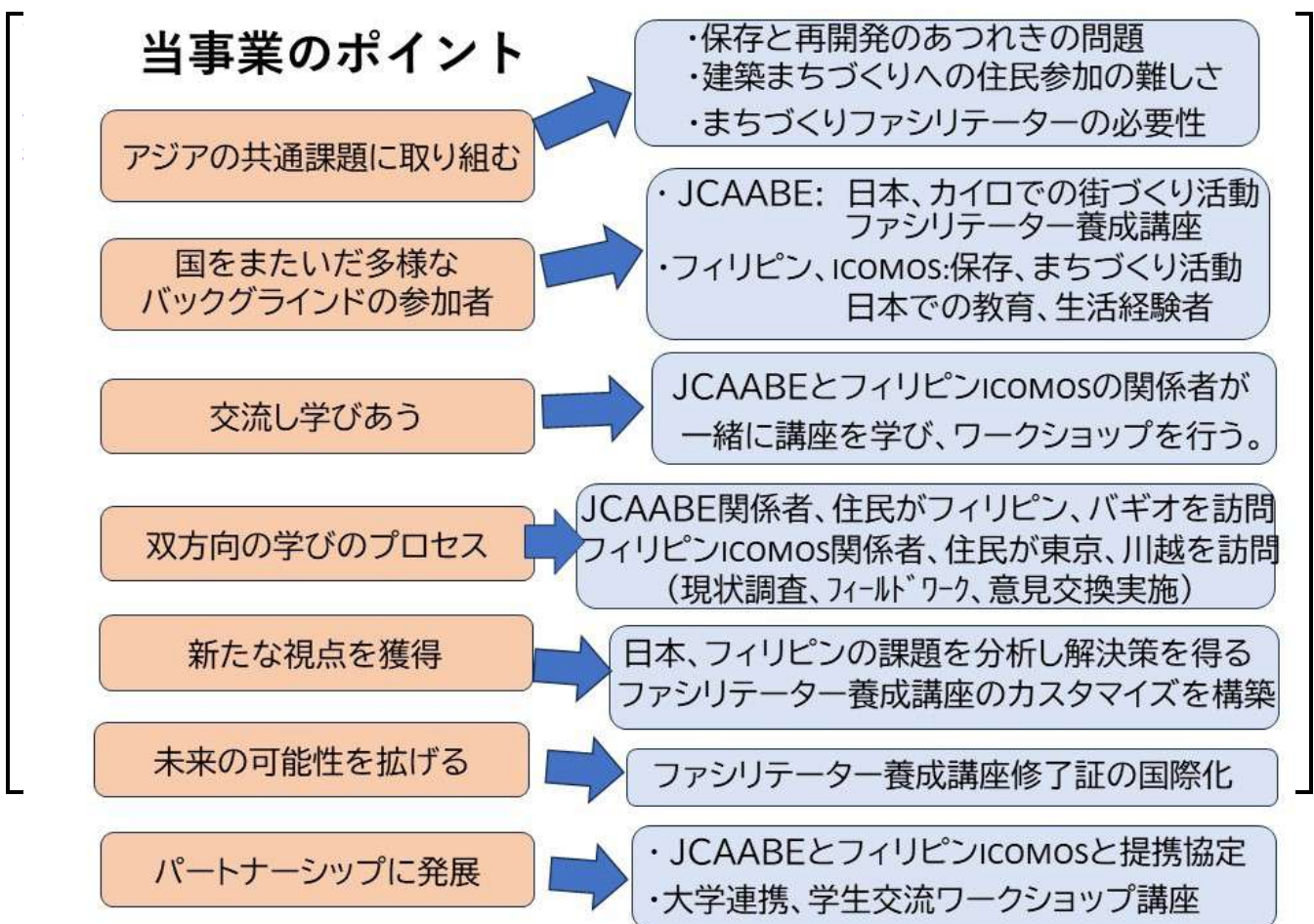
<https://jcaabe.org/page-2377/>

(成果発信を通じて期待できる波及効果など)

■アジアで同様の課題を抱えている都市からの要請が期待できる。要請があれば、同様の方法、プロセスにより、開発と保存まちづくりのバランスを作り出すことが可能となる。

7. プロジェクト終了後（3～5年）の展望および波及効果（プロジェクト対象地域以外も含む）

→当事業のポイントを以下に整理する。これはアジアの共通の課題であり、他の国にも応用ができる。他の国でも展開することにより、人的、組織的ネットワークが生まれ連携が可能となる。



8. 相互交流と学びあいの重要性 プロジェクトの目的達成のために相互交流と学びあいが必要な理由を具体的にお書きください。「4. 課題」「5. 活動内容と目的」と内容が重複しても構いません。

→相互交流と学びあいにより、双方の文化の理解に繋がると共に、自分の都市の課題や解決策を客観的に捉えることが可能になる。また人的ネットワークが生まれ、今後の情報交換や協働活動に繋がることができる。下記にフィリピンICOMOSの当プロジェクトへの協力の手紙、及び、フィリピンのセント・トーマス大学からの当プロジェクトへの協力の手紙を添付する。

ICOMOS Philippines

Room 3A, Plaza Santiago Bldg., Sta. Clara Street
Intramuros, Manila, Philippines



International Council on
Monuments and Sites
Conseil International
des Monuments et des Sites
Komite ng Pilipinas

May 27, 2024

Ar. TAKEO MURAJI

Chairman

Japan Commission for Appropriate Architecture
and the Built Environment (JCAABE)

Tokyo, Japan

Dear Ar. Muraji,

The **International Council on Monuments and Sites (ICOMOS)** is a global non-government organization which is dedicated to promoting the application of theory, methodology, and scientific techniques to the conservation of the architectural and archaeological heritage. It is an association of professionals that currently brings together approximately 10,891 members in 132 countries and territories throughout the world among which are architects, historians, archaeologists, art historians, geographers, anthropologists, engineers and town planners. ICOMOS has 248 Institutional Members and 30 International Scientific Committees (ISCs).

The **International Council on Monuments and Sites Philippines, Inc.** or ICOMOS Philippines is the duly recognized National Committee (NC) of ICOMOS International in the country from 113 worldwide. As part of the ICOMOS global network of cultural heritage experts, members of ICOMOS Philippines have been working with various local and international institutions and organizations, both government and non-government, by providing technical assistance in various fields of heritage conservation.

In line with our efforts in the field of heritage conservation in the Philippines and in strengthening partnerships with various heritage institutions, we would like to strongly endorse and express our interest to collaborate with JCAABE's grant application with the Toyota Foundation for the **"Project for Establishing a System for Resident Participation in Redevelopment and Conservation Community Planning: Through a Training Course for Community Planning Facilitators"** under the **"Baguio Preservation and Community Development Project, Philippines"**

As early as 1903, the area now known as Baguio City was already earmarked for development by the American colonial government. With its lush vegetation and cooler climate, it was envisioned to be Manila's counterpart during the hot summer

months. This vision was further developed by American city planner Daniel Burnham, who visited Manila and Baguio in 1904 and produced plans largely anchored on the City Beautiful movement but adapted to a mountainous terrain. However, in recent decades, urban development and commercialization have resulted in the growth of Baguio City and, consequently, the erosion of several cultural heritage sites.

With this, we welcome the initiative of JCAABE. We in ICOMOS Philippines can cooperate as a counterpart in this preservation and city planning project with the participation of residents, including facilitator training courses. We believe that the approach of engaging the stakeholders in a workshop for safeguarding and integrating the ideals of Burnham in current infrastructure development works in Baguio is vital in preserving the City's heritage.

Rest assured that ICOMOS Philippines will be working closely with JCAABE and other stakeholders to realize our common goal in implementing the training workshop in Baguio.

Thank you very much.

Respectfully yours,



Cheek S. Fadriquela, PhD.
Chairman/President
ICOMOS Philippines

ICOMOS Philippines

Office Address:
Room 3A, Plaza Santiago Bldg.,
Sta. Clara St., Intramuros, 1002
Manila, Philippines

Email Address:
info@icomosphilippines.com

Website:
<https://philippines.icomos.org/>

「銭湯で人をつなぐ活動／別府のまちづくり (案) ／地域を活かす建築家のファシリテーション」

建築まちづくりにおいて大切なことは地域特徴を活かすことです。別府の特徴は、何と言っても温泉でしょう。温泉は地域の人のみならず訪問者をつなぐこととなります。住民参加のまちづくりの実践では、地域の特徴として、たから(良い点)とあら(課題や問題点)を検討し、街の方向性を見つけ出すことがポイントですが、そこに関わる建築家には適切なファシリテーションが求められます。

そこで、銭湯で人をつなぐ活動をされている栗生はるか氏をお招きしてお話しいただき、〇〇氏に別府のまちづくりについてご説明いただき、それらを手掛かりに、住民参加のまちづくりにおける地域を活かす建築家のファシリテーションについて考えてみたいと思います。

●10月11日(金)18:00～20:00

●ZOOM ウェビナー方式

<https://us02web.zoom.us/j/82866640968?pwd=MjskH0Zno3mhbth9RSTHdNQqFaOcYK.1>

ミーティング ID: 828 6664 0968

パスコード: 778361



栗生 はるか(くりゅう はるか)

一般社団法人せんとまち代表理事、文京建築会ユース代表

早稲田大学・大学院で建築を学び、ヴェネツィアへ留学。(株)NHK アートを経て、大学で建築教育に携わる。法政大学、慶應義塾大学 SFC 非常勤講師。法政大学 江戸東京研究センター客員研究員として、都市空間とコミュニティについて研究。地域の魅力を様々な角度から発信すると共に、銭湯と周辺地域の再生活動を展開している。空家を活用した地域サロン等も運営中。

・挨拶: 松島逸人(JIA まちづくり会議議長) 進行: 松村哲志(建築まちづくり委員会委員長)

・「銭湯で人をつなぐ」栗生はるか(せんとまち代表理事)

・「別府のまちづくり」〇〇〇〇(別府市〇〇〇)

・「まちづくりファシリテーターとは何か」連健夫(JCAABE 代表理事)

・鼎談 質疑応答

・まとめ

●主催: JIA まちづくり会議、建築まちづくり委員会、 ●協力: JCAABE 日本建築まちづくり適正支援機構